

授業づくり

基本編：「手元に置いてすぐ使える支援シート」

理解支援

表現支援

自律支援

のため、以下のようなことを心がけてみましょう。

以下のような支援シートを見童生徒の手元に持たせ、必要な際にすぐ使えるようにしておく。

日本語を覚え始めの際に、すぐに確認することのできる
ひらがな・カタカナ一覧表
を活用

ば	ぱ	だ	ぢ	が	わ	ら	や	ま	は	な	さ	か	あ	ハ	バ	ダ	サ	カ	ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	サ	カ	ア	
び	ぴ	ぢ	ぢ	ぎ	り	み	ひ	に	ち	き	い			ビ	ピ	ヂ	ジ	ギ	リ	ミ	ヒ	ニ	チ	キ	イ			
ぶ	ぷ	づ	づ	ぐ	を	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	ブ	プ	ズ	ズ	グ	ヲ	ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
べ	ぺ	て	て	げ	れ	め	へ	ね	て	せ	け	え		ベ	ペ	テ	ゼ	ゲ	レ	メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ		
ぼ	ぽ	ど	ど	ご	ん	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	ボ	ポ	ド	ゾ	ゴ	ン	ロ	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ

自分の思いを表現するときに
参考となる**言葉シート**を活用

思いを伝えたり書いたりするときに使う言葉

うれしいです	しあわせです	よいです	ぶつうです
たのしいです	しあわせな気持ちになります	とてもよいです	まあまあです
おもしろいです	あなたがいきもちになります	すきです	だいじょうぶです
ゆかいです	おねがいになります	とてもすきです	へい입니다
よろこんでいます	ほっとします	だいじょうぶです	もんだいありません
わくわくします	あんしんします	すばらしいです	すてきです
うきうきします	おちつきます		

↑イラストをヒントに自分の思いに近い言葉を選ぶ

手順が分かりやすく
示された
支援シートを活用

手順を示した支援シートには、他にも理科の実験や片付け、日直の仕事内容等、様々な場面での効果的な活用が考えられる。

(例)

わり算のひっ算のしかた

$$\begin{array}{r} 24 \\ 3 \overline{) 72} \\ \underline{6} \\ 12 \\ \underline{12} \\ 0 \end{array}$$

- ① たてる
- ② かける
- ③ ひく
- ④ おろす
- ① 7÷3の商(2)を「たてる」
- ② 3×2=6「かける」
- ③ 7-6=1「ひく」
- ④ 1の位の2を「おろす」

歌とリズムに
合わせて覚えるのも
記憶支援につながる
♪ミOキーマウスマーチの
歌とリズムに合わせて♪
♪わ〜りざんの ひっさんを
や〜りましょう♪
♪たてる かける
ひくおろす♪

「ひらがな・カタカナ一覧表」
「自分の思いを伝えたり書いたり
するときに使う言葉シート」は、
コンテンツの中に
☆すぐ使える資料☆として
掲載しています。

手元にあることで、
安心して学ぶことのできる

情意支援にもつながる



授業づくり 基本編：「写真や絵、映像、具体物等の視覚資料」

理解支援 のため、以下のようなことを心がけてみましょう。

○具体を表す写真や絵、イラスト、動画による映像等を提示する。

※説明の際には言葉に頼りすぎない工夫を



1人1台端末を
大いに活用しましょう!

○例えば、言葉では伝えづらい擬音語も、右図のような工夫された具体物があると、視覚的にも触覚的にも分かりやすい。



○写真や映像だけでは分からない大きさ、匂い、味、温度、雰囲気などは、本物に触れさせる。

ちくちく	べたべた	ぬるぬる	ぷちぷち
↑ オナモミ	↑ ガムテープ	↑ スライム	↑ 気泡緩衝材

擬音語の具体物揭示

授業づくり 基本編「体験（動作化）活動や役割演技の導入」

理解支援

記憶支援

表現支援

のため、以下のようなことを心がけてみましょう。

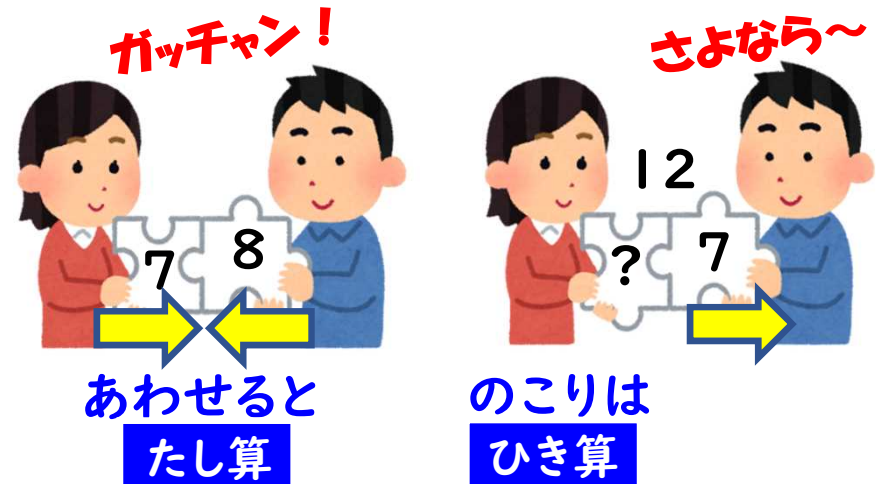
○実際に身体を使って**体験させたり（動作化）、役割演技をさせたり**することで、**分かりづらい言葉、文や文章を「見える化」**

国語の物語文の学習や道徳の授業では、登場人物の行動や心情に着目する場面において、役割演技を通して、言葉や文への理解を促してみる。



いつも遊んではばかりの息子が、**自ら進んでおつかい**を手伝ってくれたことに、母は涙を流して感動した。

算数の文章問題等においても、何が問われているのかの理解を促すために、動作化を取り入れてみる。



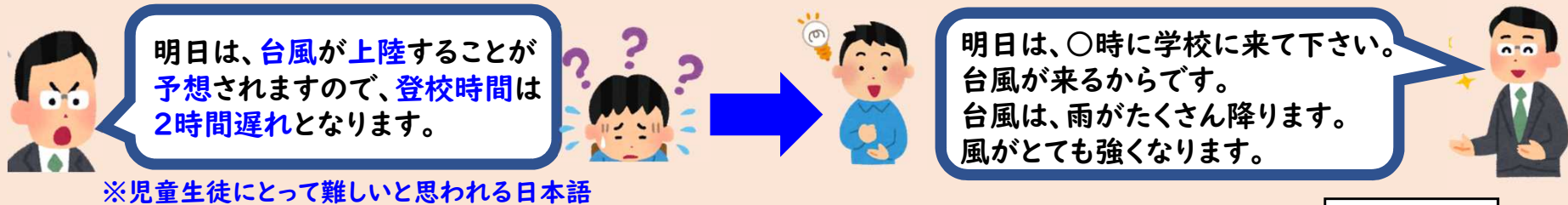
動作化による効果をイメージしながら取り入れてみましょう。

授業づくり 基本編「分かりやすい指示や発問、説明」

理解支援 のため、以下のようなことを心がけてみましょう。

「**分かりやすい日本語**」を意識した、

- **ゆっくり、はっきりした口調**
- **難しい言葉は理解できる言葉に言い換え** ※ただし、内容レベルは下げない
- **複文ではなく、主語と述語が明確な単文で簡潔に**



「**視覚化**」を意識した、

**1人1台端末を
大いに活用しましょう!**

- **絵カードや具体物、写真等の活用**
- **ジェスチャーを加えて説明**
- **個別支援の際、筆談で簡単な絵やイラストを描いて説明**
- **大事なことを掲示して残すフラッシュカード等の活用**



(例) 学習活動での指示を表す絵カードなどがあれば、説明の際の手助けとなります。

児童生徒が理解できているかどうか、よく様子を伺い、時々確認してみましょう。

授業づくり 基本編「分かりやすい情報の提示」

理解支援 のため、以下のようなことを心がけてみましょう。

情報量が多く、児童生徒にとって理解が難しいようであれば、

○ **情報を分類して色分けする**
 など分かりやすく提示 **視覚化**

文の組み立てを考えると分かりやすい文章になる！

終わり	中	始め
<p>このような理由からわたしは、もしも、夏休みに遊びに行くならば、山のほうがいいと思います。</p> <p>最後に自分の考えをまとめて書く</p>	<p>三つ目は、たくさん植物やこん虫に出会えるからです。夏にさく山の花や、この辺りにはいないこん虫の写真をとることができるといいですね。</p> <p>二つ目は、山には木かげがあつて涼しいからです。夏は気温が高くて、体がつかれやすいです。山で遊んだり、登ったりしてつかれたときには、木かげで休むことができます。</p> <p>一つ目は、高い所に登ると景色がよくて気持ちがいいからです。遠くを見わたすと、すがすがしい気持ちになります。山でつべんで、おべんとうを食べたり、写真を撮ったりするのは気持ちがいいと思います。</p> <p>次に、それぞれの理由（から）を段落に分けて書く</p> <p>それぞれの理由（から）の後に、くわしく書く</p>	<p>わたしは、もしも、夏休みに遊びに行くならば、山がいいと思います。その理由は、三つあります。</p> <p>まず、自分の考えを書く</p>

□青木さんが書いた文章
 段落に分ける
 始め・中・終わりに分ける

○ **大事なポイントだけに絞って提示** **焦点化**

きのう、遊園地に**大人が157人**、**子どもが479人**来ました。
子どもは大人より何人多かったですか。

子ども479人は、大人157人より何人多かったですか。 まずはスモールステップで！

『〇〇は〇〇より何（人・こ・円）多い』は引き算。
 大きな数から小さな数を引きましょう。

～学習者用デジタル教科書について～

- 漢字学習状況に応じたルビ振り機能
 - 文字拡大やフォント、背景色の変更
 - 分かち書き機能
 - 音声読み上げ機能（速度調整可能）
 - 読み上げている箇所ハイライト表示機能
- 等を使って支援できることが期待できる。また、上記のような情報の視覚化や焦点化の操作も期待できる。

授業づくり

基本編「理解や表現を促すキーワードとなる言葉や文の提示」

理解支援

表現支援

のため、以下のようなことを心がけてみましょう。

- 学習の中における**キーワードとなる言葉**をカードで提示したり、**事実や意見が書かれた文章を一文の要点**に落とし込んだ**センテンスカード**で提示したりすることで理解を促す。
- 話型を示した**表現モデル**や**モデル文**を提示することで「話すこと」「書くこと」の表現を促す。



カードやモデル文等を活用するに当たっては、何を見せるか、どの部分を見せるか、どのタイミングで見せるか、どんな順序で見せるか、そして、それが授業のねらいにどのようにつながっているか等を考えた上で、効果的な活用を考えてみましょう。

授業づくり 基本編「活動の流れや手順が分かり、理解しやすい板書」

理解支援 のため、以下のようなことを心がけてみましょう。

教師は言葉だけに頼らない
チョーク&トーク減を意識

○学習の流れを分かりやすく掲示 **つかむ** → **追究する** → **まとめる**

○情報ごとに使用するチョークの色を全校で統一

(例)「めあて」は青、「まとめ」は赤の囲み線。強調する言葉は黄で書く、囲む、など。

○できるだけ情報を絞り、文字数を少なく

つかむ

め (めあて) ~ ~ ○ ○ ~ ~

追究する

視覚資料を活用

まとめる

ま (まとめ) ~

ヒント

分かりやすいと安心して学べるね

つききゅう ← 児童生徒にとって難しい言葉には振り仮名を

今日はここ

学習の流れ

たしかめよう・決めよう

① 文章の組み立てについて、たしかめて、取り上げたい話題や自分の考えを決める。

考えて組み立てよう

②③ 自分の考えと理由を書き出し、組み立てを考える。

つたえ合おう・考えよう

④ 友達とつたえ合い、よりよくするための方法を考える。

整えよう・つたえ合おう

⑤ 自分の文章を整えて、よりよくつたえ合う。

⑥ めあて、学んだことをふりかえる。

授業づくり

基本編：「スモールステップで進められる、実態に応じたワークシート」

理解支援

表現支援

自律支援

のため、以下のようなことを心がけてみましょう。

- スモールステップでの発問によって理解支援を行い、学習課題に迫ることのできるワークシートの活用
- 表現モデル(話型)を明示することで、書き表し方を捉え、文章を適切に書くことのできるワークシートの活用
- 情報を視覚的に整理して思考を働かせることのできる思考ツール(チャートシート)等の活用 など

それでも理解が難しいときは、個別の支援の中で、さらにスモールステップを踏んだ対話から、子供の経験や体験につなげながら、考えを引き出してみましょう。



○どんな色彩(色の使い方)や筆のタッチ(筆の使い方)で描かれていますか。

対話で考えを引き出すような発問形式の記載にしてみよう。



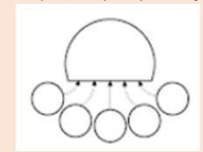
○色彩や筆のタッチ

(例)美術作品の鑑賞文を書く際の観点

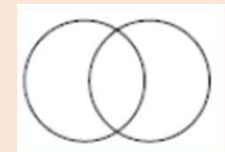
ぼく／わたしはくだとおもいます。なぜなら、だからです。
表現モデル(話型)を参考に

クラゲチャート

ベン図 など



理由付ける



比較・分類

思考スキルを身につける思考ツールの活用

標準シートを表面、スモールステップのシートを裏面に両面印刷しておけば、どの子も自分の力に合った方を選択することができます。

授業づくり

基本編：「ルビ付きや分かち書き等がなされた読解支援教材」

理解支援

のため、以下のようなことを心がけてみましょう。

先生による手作業から、デジタル教科書等を活用すれば、子供自身で、実態に応じてルビ振り、分かち書きができるようになることが期待されます。



- 子供の漢字学習状況に応じて、読めない漢字に振り仮名をつける（ルビを振る）。
- 言葉の切れ目ごとに空白を入れる（分かち書き）。

※分かち書きをすると読みやすくなるのは、言葉を一つの意味のあるカタマリとして視覚的に捉えやすいからです。（一字一字をたどり読みしている子は、言葉をカタマリとして捉えられていません）世界の言語は、ほとんどが分かち書きをしますが、日本の漢字仮名交じり文は分かち書きをしません。それは、漢字と仮名文字の境目が言葉の区切りを示すヒントになるからです。この言語感覚を掴ませていくことが大事になってきます。



李も桃も桃の内

※子供の実態に応じてステップを踏みながら理解支援を

李も 桃も 桃の 内

←言葉を捉えられたら文節ごとに分かち書き

李(すもも) も 桃(もも) も 桃 の 内(うち)

←単語ごとに分かち書き

すももももももものうち(?) ←仮名文字文は分かち書きをしていないと全くわからない

授業づくり 基本編：「漢字の組合せや意味を意識して覚えることができる教材」

非漢字圏の児童生徒にとって、漢字学習は日本語学習上の大きな壁です。
漢字の文字指導においては、文字認識や記憶にも個人差があります。

記憶支援

表現支援

自律支援

のため、以下のようなことを心がけてみましょう。

- 児童生徒に合った覚え方や学習スタイル
- つまづき（書き順や文字のバランス等）への気づき
- 教師や子供たち同士がチェックする機会
- 掴ませたい「筆の運び方（運筆）」の感覚
- 漢字のへん、つくり等の組合せや意味への意識 等

漢字スキル等に取り組み、宿題で毎日ひたすらノートに書く…（よく見る光景です）
ただただ何も考えずに書いていても、すぐに忘れてしまいますし、何よりもつまらないです。
個別最適な学びとなるような漢字学習の指導方法をぜひ考えてみましょう。



ここがポイント！

- 漢字学習では、言葉の「意味」と「音」と「文字」を一緒に提示しながら、常にそれぞれを確認したり結びつけたりしながら学べるようにしましょう。
- 漢字で書いた言葉が、どのような意味をもち、どのように読むのか、そして、どのような場面や文脈の中で使われるのかが分かるようにしましょう。

～文字指導と語彙指導の両方を意識して指導～

授業づくり

基本編：「教科の背景知識を系統立てて整理した資料」

理解支援

記憶支援

のため、以下のようなことを心がけてみましょう。

○学習において、子供のつまずきがどこなのか確認し、
そのつまずきに「戻る」ことのできる系統表を活用する。

分からない
ところが
分からない…



→ **算数科領域別系統表** →

↑クリックするとwebページに飛びます。(只今準備中)



分からない
ところが
分かった!

子供が「どこでつまずいているのか」を把握することが大事です。例えば、算数科は「積み上げの学習」と言われ、他教科に比べ、系統性の強い教科です。

そこで、**算数科領域別系統表**を活用し、子供のつまずきを確認しながら、そのつまずきに戻って指導を行ってください。

教師が**知識のつながり**や**技能の活かし方**を意識して指導を行うことは、子供へのより有効な**理解支援**、**記憶支援**につながります。